

那覇市総合計画審議会 第2回総括部会

日時： 平成29年5月19日（金） 18:00～20:00 場所：那覇市役所 602会議室

【出席者】審議員： 仲地博会長、佐藤学副会長、下地芳郎委員、堤純一郎委員

事務局： 仲本副部長、稲福副参事、玉那覇主査、富川

【次第】

- (1) 議題 第5次那覇市総合計画基本構想について
- (2) 事務連絡

【資料】

- 議題資料 第5次那覇市総合計画基本構想（案）
- 参考資料1 第1回総括部会の振返り
- 参考資料2 基本構想（総括部会案）
- 参考資料3 基本構想（他委員からの意見を踏まえ事務局で修正した案）

事務局： ハイサイ。委員の皆様におかれましては、ご多忙のなか、第5次総合計画審議会 第2回総括部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

はじめに、本日準備いたしました資料の確認をさせていただきます。(資料を示して確認する)
以上、お手元に揃っておりますでしょうか。

審議に先立ち、本日の会議開催の成立について確認いたします。総括部会6名の委員のうち、本日の出席委員は4名で、委員の過半数に達しておりますので、本審議会規則第6条第2項の規定により会の開催が可能となりましたことを確認いたします。

また、本会議につきまして、前回、原則公開するものとして確認いたしました。審議内容等について、委員又は事務局からの非公開の申し出がないときは、公開を原則として進めさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

委員： はい。(一同了承)

事務局： それでは、これより議事進行を仲地会長へお願いしたいと思います。仲地会長、ユタシウニゲイサビラ。

(1) 議題 第5次那覇市総合計画基本構想について

会長： それでは、第2回の総括部会ということになります。本日の議案「第5次那覇市総合計画 基本構想（案）について」の審議に入ります。

　　今回は、基本構想（素案）の前半を中心に審議いたしました。本日は、議案資料16ページ以降、未審議部分の審議となっております。審議時間の目安として、「3 めざすまちの姿」は各分野20分を目安とし、「4 重点取組事項」20分、「5 基本構想を推進するために」20分、最後に、前回、第1回総括部会の振返りを20分程度行い、全部で約2時間を目処に、8時ごろには本日の審議を終えたいと思います。よろしいでしょうか。

委員： はい（一同了承）。

会長： それでは、「3 めざすまちの姿」について、分野ごとに審議を進めてまいります。まずはじめに、【自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯】について事務局から説明をしてください。

事務局： はい。（議題資料「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「3 めざすまちの姿【自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯】」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見は、前回配布した資料のNo. 18～21。）

会長： 参考資料3は、前回の第2回総括部会の意見を受けて事務局が修正したものというのですが、中ほどの下線部「男女が対等な立場で活躍することや……」の部分が、委員の意見を反映した部分であるということです。それから、注釈の「Wa」の説明と、「近助」の説明がより詳しく付け加えられております。それでは、【自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯】につきまして、ご意見をお願いします。

副会長： よろしいでしょうか。文言の話になるのですが、「Wa」の表記について、ローマ字の使用に対して批判的な意見、メールで多くいただいた中で一番多かったんですね。目新しい事を狙っているのか、というような意見が多かったのですが、私は、市民提案を作成された皆さんの、那覇をグローバルなまちにしたいという思いは良いと思うんです。それは問題ではなくて、メールでも申し上げたのですが、今、少し和食の「和」が英語で「Wa」として流通し始めていて、この「Wa」がどちらの意味なのかがはっきりしないのではないかと、日本風にする、という意味で捉えられないかということをお心配しています。それで、（注釈を）「『わ（輪）』がつながり、…」というふうにしたら意味がはっきりと伝わるのではないかな、というのが一点。

もうひとつが、この「近助」というのも市民提案で、報告会で報告があったものですので、メールのご意見では批判的なご意見もあったのですが、これは生かすべきだろうと思うんですけど、ただこの※2の「感銘を受けた市民から提案された造語です」という文言が「市民が造語した」という意味になってしまうので、この造語を作ったのは、特定の方がいるんですよ。何年前かに本か何かで「近助」というのを提唱されている。「感銘を受けた」とあるのですから、「造語」ではなく「言葉」などの表現にしないと誤解を招くという、文言の二点です。

会長： まず第一点の「Wa」が和風の「和」を意味するというのが、最近欧米圏で使われてきている。

副会長： 和食というのが世界遺産になったじゃないですか。それで「Wa（和）」という言葉が少し流通しているんですね。だいぶ前、80年代なんかは経営論みたいな世界で日本の会社を重んじてみたいな理屈が流行ったところにちょっと「Wa」という言葉が出てきたときがあったんですけども、最近それは見ないので、今「Wa」というと「日本風」なんですよ。で、ここで「Wa」と表記して、気持ちとしては外に広めたいというならば、この意味が何かを、輪っかの「輪」なんですよ。これは？ その漢字の「輪」をどこか、注釈にでも入れておいたほうがいいんじゃないかということです。

会長： 英語で「和食」「和風」を意味するのは、大文字の「WA」ですか？

副会長： いや、小文字の「Wa」ですけど、どちらであってもダブリューエーでひとつの言葉であるならば、その区別はないと思います。

会長： 「Wa」が、文章のつなぎ方から調和の取れたコミュニティで、そのコミュニティをさらに説明して注釈がついているので、これを和風や和食の「和」と意味するものというふうに理解する人はいないと思うんです。ただ、それが輪っかの「輪」であると……。

副会長： 調和の「和」ならこれでいいんですけど、調和の「和」なのか、「Wa（輪）」をつなぐって言葉になっているので、両方ひっくるめているならば、それでいいとは思いますが……。

会長： なるほど、分かりました。（ここでの）「Wa」が和風の「和」を意味するわけではないがしかし、「和」なのか「輪」なのか読む人によって違う理解が出て来るでしょう。

副会長： どちらでもいいと言えればいいのでしょうけど、「和」であり「輪」である、というような注釈にするとか、そういうことを書いていたほうが安全かなという気がしました。

会長： 堤委員、下地委員、ご意見ありますか。

堤委員： 「わ」とあえてひらがな表記にしているわけですから、（和と輪の）ふたつの意味がかぶさっているわけですね。

副会長： そのままでいいという？

堤委員： 難しい判断ですね、ここは。

副会長： ローマ字が多く使われていることが、何か奇をてらったというような（批判的な）ご意見もあったんですね。ローマ字を入れるというのはどうなのかという話もあって、それはそれで、市民提案をされた方たちのこれで世界に開く、つながんだというつもりでローマ字にしたというのは尊重すべきだと僕は思うんですが、ということもあって。

会長： 下地委員、どう思われますか。

下地委員： 注釈の「調和のとれたコミュニティ『Wa』」という言葉自体がまだ十分に一般化してはいないと思うんですよ。「コミュニティ『Wa』」と言われたときに、こういうふうな意味合い（として通じる）というのはまだ一般的ではないのかなというところもあって。ここに突然出てくるからというところもあるんですけども、「Wa」に思いが入っているとしても、それがなかなか伝わりにくい感じがします。

副会長： 「小さな『わ』が大きな『Wa』」ということですから、やはりイメージとしては輪っかなんだと思うんですよ。これが輪っかの「輪」であるというふうにして、つながっていくから輪っかです、と言ったら、和を重んじるの「和」として読んでも意味が通じてしまうのではないのかな、というような気がしたんです。ちょっとその、「Wa」という表現と、「和」「輪」等でどのようにここをすべきなのか、市民提案の市民の方たちの気持ちと、他の一般の市民が読んだときにこれをどう見るかを、うまくこうバランスをとるということが必要かなと思ったわけです。日本語の文章の中に急にローマ字が出てくるというのは、まあ目立つわけじゃないですか。そうするとこれは何だろう、と思うので、そこでその本文中の説明だとか注釈を工夫しないと、効果が逆に出不かねないかと思います。

会長： 市民提案は、小さな輪が広がっていった国際交流まで視野に入れた大きな輪、というイメージだったと思います。この「Wa」を、「Wa（輪）」と表記するというのはどうですか。あるいは、「調和のとれたコミュニティ『Wa』」のところに傍線を引いて、「和」とする。

堤委員： よろしいですか。もっと積極的に説明しちゃってもいいと思うですよ。あえて漢字をひとつも使わずに「わ」「Wa」としているわけですから、ひらがなの「わ」を使っているというのは「輪」の意味であるという佐藤委員のご指摘の通りでもあるし、それに「和」の意味も入れたという期待もあると思うんですね。だから、「わ」を使うのはそういう意味があるんです、というのを説明してやって、「Wa」と使うのはそれを世界に広げるためにより一般化したいというか、より大きな意味合いで誰でも読める「Wa」にする、というようなことを下の注釈にもう少し書き込んではどうですかね。

会長： その線でとりまとめる方向で事務局に作文をお願いしたいのですがよろしいでしょうか。

事務局： はい。

会長： 「わ」も「Wa」も「和」であり「輪」であるという趣旨の注釈、このような表記をしたのは、
そのような複合的な意味があるというようなことを、理解できるような文章にしたいと思います。
作文はよろしくお願いします。

下地委員： ただここは、この「小さな『わ』が大きな『Wa』へとつながるように」というのはあく
までイントロであって、いいたいことは次のところにあるので、注釈があまり長くならないよう
にお願いします。

会長： 次に、「近助」について。先ほど、「提案された造語」というのは誰が提案したかと。

副会長： というか、「造語」という言葉をとってしまって、「この考え方に感銘を受けた市民から
提案されました」でいいのではないのでしょうか。

堤委員： 今インターネットで調べたら、阪神淡路大震災のあたりから使われていて、山村武彦さん
という方が提案されたそうです。

副会長： そんなに前から使われているんですね。ここは、「造語」というのをやめてしまえば、「提
案されました」でいいんじゃないのでしょうか。

会長： ここは、文章が少し変ですね。誰が近年使い始めて、誰が造語したかと。「造語」という言
葉はいらないんじゃないかな。

副会長： 「造語」はいらないですよ。『助け合いを指す言葉』というのが前にもうあるので、単
純に造語を取って「提案されました」でいいんじゃないのでしょうか。

会長： 「この考え方に感銘を受けた市民から提案されました」にする。他にありませんか。

堤委員： 「近助」自体はいい言葉ですよ。

会長： よろしいですか。次に行ってよろしいでしょうか。

委員： はい。（本項目は、これをもって承認された。）

会長： それでは、【環境・都市基盤】のほうに行きたいと思います。事務局から説明をお願いします。
す。

事務局： （議題資料「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「3 めざすまちの姿【環境・都
市基盤】」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見は、前回配布した資料のNo. 33
～37。）

会長：（参考資料3は）全体会議の意見を踏まえた修正になっております。あれはどうなりましたっけ、「循環を基調にした持続可能な都市」というのは。持続可能な、というのは基本構想ではここではなかったですか？

堤委員：「活力の絆」のところですかね。

会長：ここではないようですね。では、修正案をもとにご議論をお願いしたいと思います。

副会長：よろしいでしょうか。リノベーションというのが、行政ではもう普通に使われている言葉であることは承知しているんですけども、大学で周りの人たちにリノベーションっていう言葉を知っていますかと聞くと知らない、というかこういう使い方、公共空間のリノベーションとかリノベーションによるまちづくりだとかっていう用法での「リノベーション」は十分にまだ一般的には広まっていないようですので、注釈を付けるなり言葉を変えるなりした方がいいかと思います。

会長：そうですね。「リノベーション」を、普段使われている日本語で置き換えると、どんな言葉になりますか。

堤委員：簡単に言えば「改修」ですね。でも、それとはちょっと違う意味合いだろうとは思うんですけどね。

副会長：最近、松村さんという東大の建築の先生が書いた本を読んだのですが、その方が数年前にリノベーション研究会というのをはじめたそうで、それは何かというともうこれ以上新しい物は作れないと、これからの建築は既にあるものを新しい場にしていくことである、それをリノベーションと言うと。要するに新しいものを作る仕事というのは十分にやって、やりすぎたと、そういう話から来ているのがリノベーションであるという。それで、彼が始めた研究会があちこちに、沖縄県内の自治体でも広まっていて、リノベーションまちづくりの講演会をやっていたりするんですけど、これはそういった意味では行政では十分に浸透しているかと思うんですけども。改修とかっていう言葉は、日本では「リフォーム」という言葉が行きわたってしまったから、リノベーションという言葉は聞かないんですよ。行政のこの用法の意味では。なので、使うのであればこれは注釈が必要かと思います。

堤委員：（改修という意味では）英語ではむしろ「retrofit（レトロフィット）」を使う場合が多いんですよ。リノベーションというのは日本で使う独特の使い方じゃないかなと思います。なので、もっと、たとえば今まで倉庫に使っていたものを改修してレストランにするとか展示会場にするとか、そういうものをリノベーションと呼んでいる場合が多いですね。大幅にこう、変換してしまうという。だから「改修」というよりはもっと大きな意味の違い、目的自体を変える

というような内容も入っているんですけど、そこまで意味合いが通るかどうかな、どうですかね。
これは難しいかもしれない。

会長： 建物のリノベーション、というもののイメージはよく分かりました。「公園等の広場のリノベーション」となると、これはどうなりますか。

堤委員： よろしいですか。私のイメージでは、たとえば今までの公園というのは子供が遊ぶところとか環境保全のために緑地を残すところとかそういう意味合いが強かったんですけども、那覇市で考えていらっしゃるのとは違うかもしれませんが、たとえば防災意識とかですね、いわゆる「いざというときに逃げ込むところ」とか、そういう意味合いも含めていろんな多目的の形を持たせる、という方向なのかな、っていうふうに一瞬思ってたんです。ただ、それだけでもないような感じもするので、はっきりしたシーンは分からないんですけど。今、一番大きな変革点というのは、都市内の防災機能とかですね、その辺をどこまで高められるかというところになると思うんです。那覇市内でも津波ビルとか作っていますけれども、ああいうような機能を公共空間に持たせるということを強く意識しているのかな、という感じですね。

会長： 時代に適した活用ということですね。そういうような説明を聞くとそのままリノベーションで良いような気がしますが、（読んだ人）皆が分かるかというところでもない。これはもう説明を入れましょうか。リノベーションの説明を、あまり注釈が多いのもどうかと思いますが。

堤委員： もうひとつよろしいですか。「COOL CHOICEを推進します」というのは非常に良いことなんですけど、ただ、まちづくりの意味合いでCOOL CHOICEというのは。実はCOOL CHOICEというのは、環境省が進めている運動はもっと小さなイメージだと思うんです。ただ、それをここまで広げてまちづくりに適応するということが、いいことだとは思っているので良いんですけども、たとえば電気屋さんに行って消費エネルギーの小さい冷蔵庫を買うとか、そういうのがCOOL CHOICEになるわけで、まちづくり、都市機能として入れるとしたらどういうことになるのかなと思って今ちょっと考えていたんですけども。もうひとつ、（表記が）「COOLCHOICE」になっているので、間にブランクを開けないと読めないかと思います。

会長： まず、リノベーションについてから片付けましょう。注釈を付けるか、そのままおいておくか。

副会長： このまんまではないほうが良いかと思うんですよね。長くない注釈を付けるか、注釈が多すぎるならば……、でも、ぴったりした言葉はないんですよね？

堤委員： 日本語でもし表現するとしたら「見直しと大幅な用途変更」とかそんな感じになるんじゃないかと思うんですよ。

副会長： なんかあんまりかっこよくない（笑）

堤委員： かっこ悪いんですよ、確かに（笑）

会長： そういうふうに書くと、かえって「リノベーション」のほうがわかりやすいという人もでてくるでしょうね。「リノベーション」では、やはり市民向けの基本構想としては硬すぎますか。

副会長： 私は、これは変えたほうが、分かる形にした方が良いと思うんです。

下地委員： 行政の人とか専門家の人が見て分かりやすい言葉ではなく、市民目線というのでやっぱりこう、「リノベーションって何だろう？」というふうにここで止まるっていうのも少し問題かと思います。

会長： 「公共空間の見直し、再活用」みたいなことですかね。

堤委員： そうですね。

佐藤委員： 再生とか再活用とか、そういった感じでしょうかね。

会長： 言葉の置き換えで検討をよろしくお願いします。

事務局： はい。

会長： 注釈はこれには（多すぎるので）ないほうが良いですね。

委員（複数）： ないほうが良いです。（複数の委員から同意の声）

会長： 次に「COOL CHOICE」についてですが、これは何でCOOL CHOICEが入ってきたんですかね。市民意見に、第1回の全体会議でこれは出てきました？

事務局： 出ておりません。少し環境の方に、低炭素社会を目指すというのが上の方にありますので、低炭素社会実現のための取組も入れたほうが良いのではないかという、事務局内で検討した案でご提示させていただいております。

会長： 低炭素社会に向けて市民がやるべきCOOL CHOICEということですね。

下地委員： 言葉としては、この「国民運動『COOL CHOICE』」というのも、たぶん一般市民からすると何のことか全く分からない、まだ一般的な言葉にはなっていないので、もしこれを使うのであれば、この意図するところを優しく説明してあげるというのが正しいのかなと思います。

堤委員： よろしいですか。たとえば、都市の中でそういうCOOL CHOICEをしたら、住まい方そのものはいろんなCOOL CHOICEができるんですけども、たとえば交通機関で自分の車を使わずに公共交通を選ぶというのはCOOL CHOICEになるわけですね。というところまで踏み込んだ話なのかどうかというのがはっきり見えないんですけども、そういう意味合いで都市機能と低炭素社会の実現という意味ではCOOL CHOICEの方向性は正しいと思うんです。ただ、下地先生もおっしゃった通り、まだCOOL CHOICEがどんなものを意味するのかが分かっていないので、（市

民が読んだときに)「これなんですか?」というような話で終わっちゃう可能性がありますよね。

会長： 前のところに、「地球温暖化対策に資するあらゆる賢い選択」ということで、COOL CHOICEの中身の想像がつくような感じがしますが、しかし急に「国民運動『COOL CHOICE』」が出てくると、前の説明の部分を忘れてここで引っかかってしまう可能性がありますね。

副会長： これは（「国民運動『COOL CHOICE』」は）いらないんじゃないですか？ 要するに、言っていることは前の方に書かれているわけだから、国民運動云々というのがなくても話は通じると思うんですよね。「地球温暖化対策に資するあらゆる賢い選択を促していきます」のような形で良いんじゃないでしょうか。

会長： そしたらですね、「国民運動『COOL CHOICE』」という言葉を省いて、「あらゆる賢い選択を行います」というような趣旨で作文をお願いいたします。

下地委員： ここに触れていいものなのかというところもあるんですけども、(題目の)【環境・都市基盤】というところで、タイトルが「都市機能と自然環境が調和した」という順になっているんですけども、一般的に見ると「自然環境と都市機能が調和した」という方がスムーズな、これは私の印象ではあるんですけども、まずそういう印象があって、本文の中に、まず最初に「亜熱帯の庭園のような都市をめざし」というふうにきているんですけども、やっぱり那覇市内というのはまだ景観という意味においてはもう少しやっぱりこう、強化が必要ではないかな、花とみどり含めた豊かな景観づくりというところが必要じゃないかなと。たまたま、那覇市の景観審議会にも関わっていてですね、どんどん都市化していく中で、もう少しそういった景観への意識というところも大事なと思っているんですけども。どこに盛り込むかというところですが。

副会長： 情情的には大賛成で、題目が【環境・都市基盤】の並びだから、タイトルもそれに合わせるほうが、下地先生がおっしゃったみたいに、「自然環境と都市機能が調和した」とひっくり返せばいいんじゃないでしょうか。

委員： (一同賛成)

会長： これはその方向でいきましょう。

下地委員： 景観整備というのをどういうふうに考えるのか、正しい景観というのは、ちょっとこの分野しか見ていないので、全体を通して景観というのがどのように位置づけられているかというのがちょっと気になります。

会長： これはどこかでやっていますか？ 那覇らしい景観というのは。「那覇らしい景観」というのがいまひとつ抽象的ですが。首里の当蔵のまちなみが那覇らしい景観なんでしょうね。景観づ

くりについてはどこかに出ていますか？

事務局： 基本構想の中では特に言及している箇所はございません。ただ一般的には景観というのは重要な施策のターゲットになってございますので、これは後々基本計画の中では触れられるテーマであろうかというふうには考えております。ただその前段で、足がかりとなるようなところを基本構想で盛り込むべきだということでしたら、この都市基盤の中に何かしら景観についての一文を挿入するという対応も十分に可能でございます。

会長： 「亜熱帯の庭園のような都市をめざす」というこの都市像が亜熱帯の庭園、というところを工夫するということになりますか。「亜熱帯の那覇の個性あふれるまち」「個性あふれる景観をめざし」といったような。

下地委員： ちょこっとだけ入れるとすれば、二行目のところに「今後も豊かな景観云々に努めると共に、低炭素云々」というふうに進めていくと、たぶんこれからの社会というのは車依存社会からの脱却というふうなところを考えると少しく、みどりだとか景観の部分はさらに重視されていくのかなというふうなところもあるので。長々と入れる必要はないんですけども。

堤委員： よろしいですか。「亜熱帯の庭園のような」の「ような」というのは妙にひっかかるんですね。都市は庭園じゃないから庭園のようなと入れたんだろうけど、たとえば世界で庭園都市といわれているところもいくつかあるわけで、ニュージーランドとかカナダとかですね。ああいうところは、自分たちで「庭園都市です」と宣言しちゃってるわけですね。ですから、「庭園のような」というのはある意味ではかなり控えめな話で、むしろそこで積極的に打って出て、亜熱帯の原風景の景観を維持するとかそんな話になってくるかなと思うのですけれども。

会長： 那覇が「亜熱帯の庭園のような都市」になれることがありますかね？ 家や建物が密集しているところですね、亜熱帯の庭園。シンガポールだけは行ったことがありますけども、シンガポールのようなイメージなんですかね。めざす、ということだから良しとしますか？ 亜熱帯の庭園のような都市というイメージが出てこない、那覇らしい景観を持った都市というのは、もしかしたら赤瓦を模したというイメージかなと、亜熱帯植物を各家庭に植えるとか、そういったイメージは分かりますが、「庭園」となるとですね。私の想像力が貧しいのでしょうか。

下地委員： これは、第4次総計のなかで「安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市」というのがあるんですね。もしこれを生かすのであれば、「庭園のような」の「ような」を外し、「本市は亜熱帯庭園都市を目指し、これまで取り組んできました」というふうにするのであればまだ良いと思います。

副会長： 「庭園」は人の手が入っているから庭園で、自然丸ごとそのままではないわけですね。

だから庭園であるということは、人家が密集していてもそこに工夫して緑化スペースを、公共空間を作って木を植えるとかういようなこと、あるいは道路に木を植えるとか、そういうことをやっていると庭園都市になるんじゃないでしょうか。

堤委員： ただひとつ気になっているところは、亜熱帯という言葉強く意識する、それはそれで良いんですけども、間違った意識をされると困るなあと。椰子の木をたくさん植えるとか、そういったこととは違うんだということを、やっぱり、沖縄に元あった、元からあるべき原風景を再現するというのが本来のあるべき姿だと思うんですけど、そのところがうまく表現できるのかなあと。「亜熱帯の庭園都市」という言葉だけでいいのかどうかです。「沖縄らしさを持った庭園都市」とかそんな話なのではないかと思います。何か（外来の）変な植物をたくさん植えられたら大変な話になりますから。

会長： どうでしょうか。私は、椰子もイッペーもトックリキワタもいいじゃないかと思うのですが。

私のですね、亜熱帯の庭園都市に那覇がなれるのか、という気持ちは封印しまして。亜熱帯の庭園都市を目指す、目指すのだからそういうふうな那覇になって行きましょうという心積もりは良しとしましょうね。

堤委員： これはいいと思います。ただそこに、「亜熱帯」だけでいいのか。たとえば、「沖縄にあるべき亜熱帯」のような、元に戻れるイメージを取れないかなというようなところですね。

会長： 元には戻らなくてもいいと思いますが。先人たちが、花木を一生懸命沖縄に持ってきたんですよね。その努力は良しとしていいんじゃないですか。

堤委員： いや、そのまま500年前に戻れという話ではないんですけど、要は亜熱帯っぽい変な植物をいっぱい入れ込んでほしくないということなんですよ。在来種もたくさんありますし、前から入ってきちゃって困っている危険外来生物というのもいっぱいいるわけで、特にアメリカハマグルマとかああいったものをどうやって排除するかが大きなポイントとなりますから。

副会長： 沖縄らしいとか沖縄に根ざしたとか沖縄固有のといったところを一個入れたらば、ということですよ。

堤委員： そうです。

会長： それではですね、「沖縄に根ざした亜熱帯庭園都市」と入れましょうか。そして景観についてですね、ここの環境のところは、温暖化・低炭素社会が中心になっていますが、環境の中には当然景観も入るでしょうし、環境づくりを那覇市としては実際努力をしているわけです。その景観についてを一行ここに入れましょうね。

委員： はい。（一同了承）

会長： 作文を、事務局お願いします。

事務局： わかりました。

会長： あといかがでしょうか。

（他に意見がでないことを会長が確認し、本項目については承認とされた）

会長： それでは、「4 重点取組事項」について。21ページです。各論を終えまして、重点取組事項の審議になります。事務局からの説明をお願いします。

事務局： （議題資料「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「4 重点取組事項」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見は、前回配布した資料のNo. 38～41。）

会長： どうぞご意見お願いいたします。

泡盛の話は比喻だからいいですよ？ 特に泡盛の産業の話をしているわけではないので。

副会長： この部分について、「仕次ぎ」という言葉がほぼほぼ若い人たちには通じないです。昔ほど泡盛を飲まないし、仕次ぎというのを家でしない人たちには「仕次ぎ」という比喻が通じないということもあるんですよ。僕はこれは、「仕次ぎ」というのは前に習って良いと思って、問題ないと思うんですけども、（若い人たちには）通じないんです。もうひとつは、実際にこうやって泡盛産業のことだと思われている、この委員の中にもこういう（誤解をしてしまう）人たちがいるっていうのは、普通の市民の人たちには通じない恐れが大きいというふうに思いますので、ここに仕次ぎを使うのであればそれが何かと、また注釈にはなりますが、注釈を入れるなりしないと、このままでは……。もうひとつは、飲酒ということの悪いイメージがあるということもあるかと思うんですね。No. 41の意見は、そうは書いていないですけど、おそらくそういうことで提案がされているのだと思います。No. 39、40は完全に勘違いなんですけれども、このように勘違いをされるということは比喻としては適切ではないのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか。

会長： いかがでしょうか。最初の2行を削除しますか？

下地委員： これは、今佐藤委員からあったように「仕次ぎ」という言葉が、これは泡盛というものに対しては非常に重要なワードで、泡盛の良さを示す言葉ではあるんですけども、ここで言いたい重点取り組み事項というところにこのキーワードから入っていくことがやっぱり違和感を持っている人が多いのかなという感じがするんですよ。そこをどう、最初の2行を取っても上

に「仕次ぎプロジェクト」と残す以上、「仕次ぎ」は基本泡盛の伝統文化のことなので、ここの意味合いをどう捉えるかということになります。

副会長： 私は、上の行を残して誤解ないように説明した方が、煩雑・冗長にはなっても注付けて説明をして残したほうが言いたいことは伝わるのではないかという意見ですけど、あまり注を付けすぎないほうが、というのもその通りだと思いますし、どちらがいいのか分かりません。

会長： 「まちの「仕次ぎ」プロジェクト」というのもよく意味が分かりにくいですね。泡盛の仕次ぎは分かりますが、それをまちの仕次ぎとして新たな仕組みづくりと。

副会長： もう少し丁寧に書き込むとか、「仕次ぎ」そのものが何かを伝える話と、「まちの『仕次ぎ』」というのが何を意味しているのかを、もう少し分かりやすくするという。どっちでもいいけどどっちかちゃんとしないと、誤解されたり反発があったりということになっちゃったら逆効果です。泡盛を仕次ぎをするように、まちでもこうして……という文章を入れるか、あるいは下の方に注を加えるか、何かしないと素直に受け入れられないんじゃないか。

堤委員： よろしいですか。私はこの「仕次ぎ」プロジェクトという話を聞いて、とってもいいなあと思ったんですね。実にしっくりきちゃったんです。だから全然疑問を持たずにこれでいいと思っていたんですけど、確かに仕次ぎを知らない人からしたら全く意味のないことになるんですね。要するに、既存のまちがあってそこに新しい物をちょっとなんて入れて、古いものが出て行く、消費されるみたいな話。

副会長： 全体としては古いものはずっと続いていくんだけどそこに新しいものが入っていくという意味です、ということを本文に書き込むか何かしないと、明らかに勘違いされるということがあるので。40人の委員の中で2、3人が誤解をしているということは。

堤委員： 方向性として間違っているわけじゃないし、これはとてもいいと思うんですけどね。

事務局： すみません。事務局から補足申し上げてよろしいでしょうか。（会長に許可を得て）今、ご覧いただいております、全体会から第1回総括部会までにいただいた委員からの意見の資料ですが、No. 39～41が「仕次ぎ」に関する意見となっておりまして、これはいずれも同一の方からのご提言となっております。

副会長： 同一の方なんですか。意見が分けられているということで、3人が誤解したというわけではないんですね。分かりました。

委員（複数）： （複数人より、もう少し丁寧に説明すればそれでいいのではという意見）

会長： 「まちの『仕次ぎ』」のところに、イメージを書きましょう。古い伝統の中に新しいしくみを取り入れる、そして再生をしていくという趣旨の文章を入れる。1行目の「丁寧な『仕次ぎ』」

（「仕次ぎ」という言葉そのものの説明）はどうしますか？ 分かるだろうものとして、そのままにしますか？

副会長： 長い文章じゃなくても、どのように行うというのを10文字くらいで説明できれば……。

会長： じゃあですね、「仕次ぎ」が何のことかを想像がつくような説明を前の方に付けるということで、事務局よろしく願います。そして、「まちの『仕次ぎ』」のところもですね、説明を入れてください。

下地委員： 伝統的な文化も残しつつ新しいものも取り入れていくというニュアンスを書いてもらったほうが、そういう方針と仕次ぎをかけているんだなというのが若い方とかにも分かりやすいものにするといいですね。

会長： そして、その重点取組事項として3つは、これはいかがですか。

堤委員： （委員意見No.38は）「地域の力」が変だということですよね。

副会長： 「地域の力」って、普通に使いませんか？ 私はよく見る気がします。好き嫌いの話かな、と個人的には思うのですけど。

下地委員： これは、下の説明の方で地域という言葉を使っているので、「稼ぐ」「ひきつける」というような部分と整合性を取るのであれば、最近の言葉ですけれど、たとえば「つながる」とか。「つながる『力』がひろがる」というような意味合いであればいいのかもしれないけれども。

委員： （一同、「つながる」に賛成）

下地委員： それから、ちょっとやっぱ表現が弱いなと思うのが、「お互いに出来ることを持ち寄ることで」というところは少し、もう少し踏み込んでも。

会長： それでは、見出しは「つながる『力』が広がるしくみづくり」に変更としてよろしいですか。

委員： はい。（一同賛成）

会長： 「お互いにできること」というのをもう少し積極的な表現に変えられないか。「協働」という言葉などはどうでしょうか？ 那覇は「協働のまちづくり」でしたよね。

（委員から意見が出ないのを確認して）「お互いにできること」という表現をもう少し検討お願いします。

事務局： 事務局より確認よろしいでしょうか。（会長の許可を得て）今、「地域の『力』がひろがる」を「つながる『力』がひろがる」に修正するというので、後ろの「ひろがる」との兼ね合いなのですが、つながる・ひろがるとなりますが、これはよろしいでしょうか。この部分何かご指摘がありましたら。

会長： 「つながる『力』がひろがる」でいいと思いますが、いかがでしょうか。

下地委員： 文章の方では、「地域のつながる『力』がひろがる」と残してもいいと思います。上方（タイトル）は、三つのバランスをとるということで、あえて「地域」というのはある種当たり前のことなので外している、ということで。

委員（複数）： よろしいんじゃないでしょうか。

会長： では、それでいきましょう。それでは次の項目に進んでもよろしいでしょうか？

委員： はい。（これをもって本項目については承認された）

会長： ここで休憩を入れますか？（委員全員から、特に必要がないという意見を受けて）それでは、続けます。「5 基本構想を推進するために」について事務局から説明をお願いします。

事務局： （議題資料「第5次那覇市総合計画基本構想（案）」の「5 基本構想を推進するために」を読み上げ、説明する。これに対する委員からの意見はなかった。）

会長： いかがでしょうか。ご発言をお願いします。

堤委員： ひとつ質問というか、最初のタイトルなんですけど、この意味はもちろん分かるんですけど、（「将来にわたり持続的な行政」について）行政って持続可能なものだと思直にずっと信じていたんですけど、改めて言わないといけないことなのかなと、ちょっと今びっくりしたんですが。「行財政」として、財政が入ると持続可能性というのが当然問題となりますから、財政の問題で意味は分かるのですが、行政が持続可能でないならば大変なことになるので、この表記は必要かなと思ったのですが、どうですか？

会長： そうですね。財政としても、効率的な財政という意味でしょうね。「持続可能な」というのは。

下地委員： 運営ということですよ。 「持続可能な行財政運営」とすれば、一般的かと思います。

副会長： 財政破綻したとしても行政の機能自体は残りますので、持続可能ではあるんですけど、これはそれとは違う話なんですよ。下の方に「持続可能な行財政運営を行う」というのが出てきているので、いいんじゃないでしょうか。

会長： その、「☆持続可能な行財政運営を行う」の文章の中には持続可能なという言葉は出てきませんよね。出てきているのは、「効率的で効果的」という言葉が出てくる。

副会長： 「将来の推計人口に対応する適切な」というところが「持続可能な」の意味するところなんじゃないかな。その次の話からすると。

会長： まずはですね、「将来における持続可能な行財政運営」と入れましょうね。「持続可能な」

も私はひっかかっていますが、どうですか？ 「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営」の方がいいんじゃないでしょうか。

堤委員： その方がいいですね。すっきりします。

会長： では、そう直しましょうか。「持続可能な……」というのを「効率的で効果的な行財政運営」これでいいでしょうか？

委員： はい。（一同了承）

会長： あといかがでしょうか。よろしいですか。

事務局： 会長よろしいでしょうか、事務局から確認をお願いします。（会長の許可を得て）今、サブタイトルを「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営」に改めましたが、これはいずれも次の星印の項目とリンクしてございます。2番めの星が「持続可能な行財政運営を行う」になっていて、これは従前の表現をそのまま踏襲していますが、ここも変えるということでしょうか？

会長： 変えましょう。よろしいですか？

委員： はい。（一同了承）

副会長： 今の（サブタイトルの）話ですが、「市民との信頼を深め、」を受けているので「行財政運営を行う」と、「行う」を入れるべきですね。

会長： はい。サブタイトルは、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」にいたしましょう。「5 基本構想を推進するために」については、これでよろしいでしょうか？

委員： （一同了承。これをもって、今項目については承認された。）

会長： それでは、次に参りましょう。ここまでで、基本構想（案）については、総括部会での審議を終えたところであります。ここで、前回の第1回総括部会について、どういう議論があったのか、それを受けた事務局の修正を含めて、振返りをしたいと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局： （参考資料1「第1回総括部会の振返り」と、それを受けた修正案である参考資料2「基本構想（総括部会案）」を用いて、説明を行う）

会長： 本総括部会での審議を踏まえて、修正案が作られております。適切に修正されていますでしょうか。前回出席していた下地委員、どうですか。よろしいでしょうか。

下地委員： 2ページの「2 まちづくりの姿勢」について、Kではじまるのくくりではなくもう少し

本質的に、というところで修正していただいたのはいいと思うんですけども、「平和の絆」が5番目になっているのはこれでいいのかな、というのがちょっと。従来、言葉の流れとしては「平和、共生」とかっていうような流れになっているので、最初に協働の絆というのが来るのであれば次に平和、共生……というほうが、平和のメッセージを強く出すにはやはり最初の法にあったほうが、別にこれは順番ではないんですけども、一番最後にこれが来るというのはちょっとどうかというふうに思います。

副会長： 前回これは入っていなかったもので、私も是非入れてほしいと思っていましたので、入れてもらったのは良かったと思います。下地委員の言うように本当は順番も考慮した方が良いかと。

会長： 事務局は、平和が5番目になっていることについて、何か考えがあってここに入れたのでしょうか？

事務局： いえ、事務局としては、大きな意図はございません。従前の第4次総計でも「自治・協働・平和都市を目指して」という並びになってございましたので、下地委員のご指摘の通り、並びとしては上位の方にあげていくべきだと認識しております。

会長： どのような並びがいいのでしょうか？ 今、下地委員は「協働、平和、共生……」という案でしたかね。

下地委員： そうですね。協働というのが那覇のこれまでの強い方針であるので、これを踏襲するといふのであればこれが一番先でいいと思うんですけども。共生との間に入れていたほうが、平和の絆というのはもう少し大きな枠組みなので、共生というのはその下に持ってきたほうがいいんじゃないかという感じがします。

会長： では、そのようにしましょうか。

委員： （一同了承）

堤委員： 私はこの改定案を見て、「元気の絆」は修正前の「活力の絆」のままがよかったんじゃないかという気がしたんですけど、まあ、元気でもあんまり違いはないのですが。ただ、一番分からないのはその下の「共鳴の絆」なんです。これは、共鳴という言葉で全部うまく説明出来ちゃってるのかなというのがよく分からなくて、「発展の連鎖を響かせる」という言葉がしっくりと意味が頭に入ってこないんです。Kで始まるというので括っていたのでそれも仕方ないかと思っていたんですが、それを外したのであれば、もうちょっと別の表現があるのかなというような気もするんですけど。

会長： まず「活力の絆」からいきますか。「活力」を「元気」に変えたのはどういう経緯だったんですか？ 委員の意見がありましたっけ？

事務局： こちらは、「絆」ということで5つを括ったのですが、協働、共生などは、つないでいく、絆というイメージに直結するイメージの言葉でございました。「活力の絆」というのが、そういうイメージがちょっと弱いのかなと事務局で考えまして、「元気」でありますと、元気のリレーというイメージもあって、より絆というところがイメージしやすいのではないかという思いがございました。「活力」でもそういうニュアンスが不足しているわけではないということでしたら、堤委員ご指摘の……。

堤委員： いえ、どっちがいいとは言いきれませんが、変えた意味がそういうことでしたら別にかまいませんので。

副会長： 言葉の意味合いではなく、トーンとかニュアンスとか。「元気」というのはちょっと砕けた感じですね。「活力」の方がそぐうではありますよね。

堤委員： 確かにそれは感じたんですね。「活力」の方がちょっと格調高いというか。

下地委員： トーンを合わせるというような。

事務局： 中の説明の2行においては、「明日への活力がみなぎるまち」というふうに活力を使っておりますので、上の（タイトルの）表現も「活力」がいいのであれば、それも十分に可能かと思っています。

副会長： 「活力」がいいのではないですか。

会長： 「元気の絆」というのも、私はイメージは共感しましたね。元気というのは伝染するものだと、だから「絆」という言葉に合うんだという説明、分かりました。格調を取りますか？「元気」というのは口語的で、「活力」というのは格調高い言葉であると。

委員（複数）： 格調高いというか、硬い言葉。元気というのは少しやわらかいですね。

会長： では、元に戻して「活力の絆」にいたしましょう。

もうひとつ、「共鳴」というのがさらに言葉を置き換えられないかと。「連鎖を響かせる」というのを別の言葉に変えられないかというご意見でしたが。

堤委員： というか、元々その「共鳴」は、私の理解で間違っているのかもしれませんが、要は外部からの影響をうまく取り込んで、自分のものにしていきましょうっていう、そんな感じかなと思ってたんですね。那覇市以外のところと共鳴合いましょうっていうことで、まあ分かんないではないんですけど、「発展の連鎖を響かせる」というとちょっと（意味の理解が）難しいなあという感じがしていたので。

まず、（私のこの理解で）正しいですか？ 意味合いがまず、共鳴の意味が正しいのかどうかがよく分かっていないんですけども。その、那覇市独自で進めるものもあるんですけども、

それと他のものも、周辺のいろんなものも取り入れて一緒にやって行きましょうという。

副会長： 全国の先進事例、外国の事例も含めて、なおかつ那覇市の中でもこういう取組もあってということ、あまり知られていないけどこういうすばらしい取組もありますよというのも広がっていくんですよね。そういうことだと読み取ってもらえないですかね。

堤委員： もし読み取ってもらえるなら全然これでいいんですけど。

下地委員： 沖縄的には、万国津梁というのが、世界をつなぐというがあるので、そういうところと結びつけるイメージをとるところはあるのかもしれない。

事務局： 事務局から補足してよろしいでしょうか。（会長の許可を得て）「共鳴の絆」の考え方の背景には、かつて三重県知事あたりが提唱していらっしゃった善政競争みたいな、つまりあちらこちらで良い行いをして、それを我が方にも取り入れてさらに広げていこうというような動きがございました。これは市の外からのものを取り込むというのもそうですが、那覇市は今、先ほど地域力という言葉が出てきましたが、それぞれの地域で協働というベースのもと取組を進めておりますので、それぞれが呼応しあうというところをイメージして「共鳴」という、そして「共鳴」というところから、これは私ども市長の言葉からありますが、音叉のようにお互いが響きあうというようなところをイメージしたい、というような重いも込められているところでございます。

会長： イメージ分かります。なんというか、プラスのスパイラル、連鎖を作ろうというようなことですね。

下地委員： 言葉の一般的な使い方として、「連鎖」という言葉はプラスの意味で使うことが多いのか、マイナスの意味で使うことが多いのか、そこはどうですか。「発展の連鎖」という言葉は一般的に使われているんですか。

副会長： （一般的な使い方としては）連鎖反応、とかなので、中立的ですね。どちらでも使えるとは思いますが。「発展の連鎖を響かせる」というのはちょっと無理がある感じがするから、音を響かせる、というのをそのまま使うとか、共振させて、とか。要は広がっていくんです、というのを言うわけですね。「連鎖を響かせる」というのが、ちょっとここがつながってないですね。

委員（複数）： （委員複数から、同意の声）

下地委員： （ここで言いたい内容は）ある意味、柔軟性を持った運営、ということですね。いろんなものを含めて。

事務局： そうですね。

堤委員： 要するに、相互関係でお互いに高めあっていきたいと思いますということですね。

副会長： そういう言葉でいいんじゃないでしょうか。

会長： 「響かせます」を何か適切な言葉に変えられますか？ 「響かせる」だったから「共鳴」というのをおいているわけですね。

副会長： そうすると、何かを響かせる、というふうにした方がいいですか。

会長： 「連鎖」の方を変えるか。

（意見が出ないのを確認して）事務局に投げていいですか？

事務局： はい、事務局で引き取ります。

副会長： 共鳴して広がっていくという話と、受け入れるあるいは学びあうことでさらに広がっていく、という趣旨で作文を。大変かと思いますが、お願いします。

会長： 共鳴、連鎖、響く、このあたりをイメージや言葉の使い方を適切な用語で説明できるようにご検討をお願いいたします。他いかがでしょうか。

（委員の意見が出ないことを確認し）前回の意見は適切に反映されていますね。性の多様性についても。

副会長： 前回の意見を拝見しても、全部含まれていると思います。

会長： よろしいでしょうか。

委員： （一同了承。これをもって、今項目については承認された。）

会長： 本日の審議はこの程度とし、次回の第3回目は、これまでの審議を踏まえ、基本構想（答申）案について審議を行いたいと思います。これは、総括部会からの答申という形になるのですか？

事務局： 総括部会から全体会に報告し、全体会で承認を得て、審議会からの答申という形になります。

会長： それでは、第2回総括部会はこれで閉めたいと思います。委員の皆様大変お疲れさまでありました。では、この後の進行を事務局にお任せしたいと思います。宜しくお願いします。

事務局： はい。仲地会長並びに委員の皆様、本日の第2回総括部会、ご審議ありがとうございました。次回は5月29日（月）18:00からこの会議室にて開催いたします。基本構想答申（案）について審議していただき、6月1日（木）全体会議にて基本構想答申（案）を議題とする予定であります。よろしくお願いいたします。本日は、大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。

一同： お疲れさまでした。ありがとうございました。

以上